

第4回厚生常任委員会会議録

- 1 開会日時 平成28年4月20日（水）午前10時0分
- 2 閉会日時 平成28年4月20日（水）午後0時19分
- 3 会議場所 議会委員会室
- 4 出席委員
5番 丸山 明君 7番 原田 素代君 11番 福木 京子君
15番 小田百合子君 17番 金谷 文則君
- 5 欠席委員
13番 岡崎 達義君
- 6 説明のために出席した者
市 長 友實 武則君 副 市 長 内田 慶史君
市民生活部長 新本 和代君 保健福祉部長 石原 亨君
保健福祉部参与 岩本 武明君 赤坂支所長兼市民生活課長 正好 尚昭君
熊山支所長兼市民生活部参与 入矢五和夫君 吉井支所長兼市民生活課長 荒島 正弘君
市民課長 作本 直美君 協働推進課長 塩見 誠君
環境課長 黒田 靖之君 社会福祉課長 国正 俊治君
子育て支援課長 国定 信之君 健康増進課長 谷名菜穂子君
介護保険課長 藤原 康子君 熊山支所市民生活課長 稲生真由美君
赤坂支所健康福祉課長 中永 光一君
- 7 事務局職員出席者
議会事務局長 奥田 吉男君 主 事 藤井 千恵君
- 8 協議事項 1) 平成28年度事業の進捗状況について
2) その他
- 9 議事内容 別紙のとおり

午前10時0分 開会

○委員長（原田素代君） 皆さんおはようございます。

ただいまから第4回厚生常任委員会を開会いたします。

開会に先立ちまして、友實市長より挨拶をお願いします。

○市長（友實武則君） はい、委員長。

○委員長（原田素代君） はい、友實市長。

○市長（友實武則君） おはようございます。

今日は、第4回の厚生常任委員会ということで、お開きいただきましてありがとうございます。この常任委員会の開会に先立って、1つ御報告をさせていただきます。

先般発生いたしました熊本県の地震災害に関することでございます。

平成28年4月14日、午後9時半ごろに地震が発生しました。震度7を記録してございます。その後、4月16日土曜日でございますが、朝8時に岡山県緊急消防援助隊として救急車1台、資機材輸送車1台、隊員5名が第1陣として支援に向かいました。その後、4月17日にローテーションということで、3名が入れかわりで第2陣として出発し、その後、18日月曜日に2名が第3陣、そしてこの18日から義援金として本庁、各支所、出張所に設置をさせていただいております。そして、本日4月20日午前6時に3名が第4陣として出発しております。そして、明日21日午前6時に2名の第5陣としての出発を予定してございます。おおむね2泊3日のローテーションで派遣をするということで、岡山県隊としては熊本県の益城町のほうでの捜索活動、救助活動に当たるようなことで活動をしているところでございます。申しわけございません、この場をおかりしての御報告とさせていただきます。

きょうの第4回厚生常任委員会につきましてですが、今日は各部より平成28年度の主な事業の進捗状況、あるいはその他の案件もでございます。慎重なる御協議をお願いして御挨拶にかえさせていただきますので、どうぞよろしく願いいたします。ありがとうございます。

○委員長（原田素代君） ありがとうございます。

なお、本日岡崎副議長より欠席との申し入れを受けておりますので、御報告いたします。

続きまして、新年度初めての委員会ですので、執行部の新しい方をきょうは御挨拶とか自己紹介をお願いしておりますので、よろしく願いします。

○市民生活部長（新本和代君） はい。

○委員長（原田素代君） 新本部長。

○市民生活部長（新本和代君） 厚生常任委員会所属の職員で、4月1日付の人事異動で4名が異動いたしておりますので、御紹介をさせていただきます。

それでは、熊山支所長、入矢支所長でございます。

○熊山支所長兼市民生活部参与（入矢五和夫君） 失礼します。4月1日から総務課のほうから、今度熊山支所の支所長ということで異動させていただきました。一生懸命頑張りますの

で、よろしくお願ひいたします。

○委員長（原田素代君） お願ひします。

○市民生活部長（新本和代君） 続きます、協働推進課長、塩見課長でございます。

○協働推進課長（塩見 誠君） このたびの異動で協働推進課のほうに参りました塩見と申します。以前は都市計画課のほうに参りました。よろしくお願ひいたします。

○委員長（原田素代君） お願ひします。

○市民生活部長（新本和代君） 赤坂支所健康福祉課長、中永課長でございます。

○赤坂支所健康福祉課長（中永光一君） 赤坂支所健康福祉課長、中永です。以前は3年間、75歳以上の後期高齢者医療制度に行っておりました。よろしくお願ひいたします。

○委員長（原田素代君） よろしくお願ひします。

○市民生活部長（新本和代君） 熊山支所市民生活課長、稲生課長でございます。

○熊山支所市民生活課長（稲生真由美君） 失礼します。熊山支所市民生活課長になりました稲生と申します。昨年までは下水道のほうでお世話になっておりましたが、このたびの異動で市民生活課のほうでお世話になります。よろしくお願ひいたします。

○委員長（原田素代君） お願ひします。

○市民生活部長（新本和代君） 以上でございます。よろしくお願ひいたします。

○委員長（原田素代君） ありがとうございます。これからまたお世話になりますので、よろしくお願ひします。

それでは、協議事項に入ります。

最初に、28年度事業について市民生活部から説明をお願ひします。

○市民生活部長（新本和代君） 委員長、市民生活部長、新本。

○委員長（原田素代君） 新本部長。

○市民生活部長（新本和代君） それでは、平成28年度の主な行事についてということで、協働推進課のほうから御説明をさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

○委員長（原田素代君） お願ひします。

○協働推進課長（塩見 誠君） 委員長、協働推進課長、塩見。

○委員長（原田素代君） はい、塩見課長。

○協働推進課長（塩見 誠君） それでは、本日の資料の中で市民生活部の委員会資料のほうをごらんいただければと思っております。ページはぐっていただきまして、1ページをごらんいただければと思っております。協働推進課より、平成28年度の主な行事につきまして説明をさせていただきます。

まず、1番といたしまして、人権の花贈呈式ということで4月20日、実は本日でございますが、仁美小学校のほうで人権の花の種、プランターを児童に贈り、育ててもらうための贈呈式でございます、子供に命の大切さを学んでもらうというものでございます。

2 番目といたしまして、男女共同参画セミナーということで、年3回を予定をさせていただいております。5月は5月19日、7月2日、8月というような3回の予定をいたしております。

3 番目といたしまして、人権擁護委員の日の啓発ということで、6月1日、そこに市内のスーパーと書いておりますが、マルナカ山陽店のほうで行う予定にいたしております。市と人権擁護委員が人権啓発を行い、市民に周知を図るものであります。

4 番目といたしまして、社会を明るくする運動ということで7月を強調月間といたしまして、犯罪や非行が起きない社会をつくろうという運動で啓発を行うものであります。

5 番目といたしまして、協働のまちづくりフォーラムということで10月を予定をいたしております。

6 番目といたしまして、人権を考えるつどいといたしまして12月4日の日曜日、赤坂健康管理センターで人権週間に合わせて行うものであります。

7 番目といたしまして、人権スポーツふれあい教室ということで12月7日に仁美小学校で湯郷 Belle の選手をお迎えいたしまして、スポーツを通じて人権の大切さを学ぶものであります。

一番下に参りますが、8 番目といたしまして、人権啓発作品展ということで、年を明けまして1月の中、下旬に予定をいたしております、人権にかかわります作文、標語、ポスター等を展示する予定にいたしております。

以上が協働推進課の今年度の主な行事でございますので、御紹介をさせていただきます。説明は以上です。

○委員長（原田素代君） ありがとうございます。

委員の皆さん、何か御質問がございましたら。

はい、丸山委員。

○委員（丸山 明君） 1 ページの上から2 番目の男女共同参画セミナー、3 回開かれるという御説明をいただきました。もしよろしかったら、5月、7月、8月のテーマを教えてください。

○協働推進課長（塩見 誠君） はい。

○委員長（原田素代君） はい、塩見課長。

○協働推進課長（塩見 誠君） 先ほど御質問ございました男女共同参画のテーマにつきましては、現在検討をしております。直近では5月19日ではありますが、現在検討中でございますので、今のところテーマは決まっておりますので御了承いただければと思います。

以上です。

○委員長（原田素代君） はい、丸山委員。

○委員（丸山 明君） 一番直近のは、今おっしゃったように5月19日なんです。だから、毎

年やられてるわけです、今までずっと。僕も参加したことあるんです。男女共同参画っていうのは、結構息の長いテーマでやられてるんですけども、最近になっても僕なんかの感覚でも男女共同参画がうまくいってるとは思えないんですよ。ですから、重要なテーマなんです。家の中がうまくいってない、定年になったら離婚したとか、年金がうまく分割できないとか、さまざまな山陽団地でも問題が起きてまして、だからともかくちゃんとテーマあるんです。解決しなければならない問題っていうのは山ほどある。だから、余り悠長に考えられずに今までのことを聞かれて、ちゃんと私はテーマを決めて周知をして、関心を持った方には来ていただくというふうなことも僕は必要だろうと思ってます。真面目に私もそういうことを考えたことが何度もありますので、ぜひ早急に検討せられて、いいテーマを決めて、しっかりした内容でお願いしたいと思います。

済いません、以上です。意見です。

○委員長（原田素代君） はい、新本部長。

○市民生活部長（新本和代君） 委員長。

○委員長（原田素代君） はい。

○市民生活部長（新本和代君） 先ほど5月19日のテーマのことについて申し上げましたが、この事業につきましては、男女共同参画団体ネットワークさんとの共催で開催することになっていると思います。それで、多分講師も決まっていると思いますので、後ほど御報告をさせていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

○委員長（原田素代君） 新任の方ですから、そういう引き継ぎの不備はあるかと思いますが、準備がされているはずですので、後でもお持ちになってください。チラシもできてると思います。

済みません、丸山委員。

○委員（丸山 明君） はい。

○委員長（原田素代君） そういうことです。

ほかに何かありますか。よろしいでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（原田素代君） じゃあ、引き続いて執行部のほうから御説明をお願いします。

○環境課長（黒田靖之君） 委員長。

○委員長（原田素代君） はい、黒田課長。

○環境課長（黒田靖之君） それでは、環境課から赤磐市一般廃棄物ごみ処理基本計画について説明させていただきます。

お手元のほうに基本計画書と、その概要版を用意させていただいておりますが、計画書の内容を抜粋した概要版で説明をさせていただきたいと思います。

○委員長（原田素代君） 黒田課長、済みません。ピンポイントでいいですので、余り丁寧に

なさらなくても、ポイントだけ、改正点とか重立ったとただけをお願いします。

○環境課長（黒田靖之君） はい、わかりました。

赤磐市のごみ処理につきましては、ごみ処理基本計画に沿っていくという大きな概念がございます。26年4月から、以前それぞれの形で運営しておりましたごみ処理施設を津崎地区に1つにまとめたということが、前回の策定していた基本計画の中で統一するという事でまとめ上げられたものが実行できているという状況にあります。

それで、概要という形にはなりますが、それでは計画期間というところをごらんいただきたいと思います。計画期間につきましては、国のごみ処理基本計画策定指針に基づきまして、長期的視点に立った計画としております。平成28年度から平成42年度の15年間とした計画であるということです。それからまた、計画策定から5年経過後に今回の計画と同様の見直しを行うということで、目標達成状況を踏まえた計画の見直しを行うこととしております。

それでは、1枚めくっていただきまして、2ページ目をお願いします。2ページから3ページ上段にかけては、現在の処理の状況についてそれぞれグラフ化して表示しております。

まず、ごみ処理の排出量につきましては、ここに記載のとおりでございます。年間1万2,000トン程度というところで、横ばい傾向のごみの排出量という状況になっております。左側のグラフに黒丸表示で1人1日当たりのごみの排出量の動きを示しております。ごらんいただきますとおり、740から790グラムを推移しているという状況でございます。その右隣のグラフにつきましては、1人当たりの排出量を全国それから県平均と比較したものをあらわしております。ごらんとおり赤磐市が一番下の緑の折れ線グラフになります。769.3グラムということで、これは平成25年度の数字になりますが、全国と平均いたしましても約200グラム程度排出量が少ないという状況でございます。この数字を見る限りにおきましては、市民の方の削減努力がうかがえるというふうに判断をしているところでございます。

次に、資源化量につきましては、その下のグラフになります。年々減少しているという状況にはなっております。26年度につきましては、15.2%という状況になっています。右側が同じように全国、それから県と比較したもののグラフ表示になっております。このことは、紙類それから資源化物の排出先が店頭回収であったりとか、郊外の改修施設、そういったところへ移行しているということも、資源化の率が下がるという部分へ多少なり影響しているものではないかなと推測しているところでございます。

次に、中間処理量につきましては、左側のグラフのように焼却の処理量は年間1万程度の前後を推移しているという状況でございます。また、焼却処理以外の中間処理量につきましては、500トン程度推移しておりましたが、新施設が稼働した後におきましては若干増加傾向に転じているという状況になっております。

3ページのほうをごらんください。

3ページの上段につきましては、最終処分量の関係を載せております。このグラフで示すよ

うに、年間1,200トンから1,500トンの間で推移しております。処分量にいたしますと、10から13%の状況という形になっております。右側が全国、県平均とするグラフとなっております。赤磐市の場合は、若干処分量が高い13%という状況になっております。

このような状況の中で、ごみ処理の課題を上げるということで5番目のごみ処理の課題ということで、排出抑制、資源化につきましては、分別の積極的な取り組みにより排出量の削減とリサイクル率の向上を目指していく必要があるのではということ。

それからまた、中間処理におきましては、焼却の適正処理、適正運転、それから処理量に対する処理体制を維持していく。それから、廃棄物の選別によりまして再資源化への促進を進める必要があると。それから、最終処分、処分施設につきましては、ごみの排出量の削減と分別収集を促進していきまして、可燃ごみの減量、それから焼却残渣の有効利用を図ると同時に施設の長寿命化を図る必要があると。安定した最終処分ができる施設の確保、こういったものが課題として上がってくるものではないかなと思っております。

6番目に目標値の設定ということでございます。

現在のごみ量、それから課題を踏まえた上で、今後市として取り組む目標値として設定したものでございます。ごみの減量目標につきましては、1人が1日当たり出すごみの量の目標を約719グラムとするものです。このごみ量は、家庭ごみ、それから事業ごみ、集団回収を含む総排出量から成るものでございます。先ほど2ページの上段にもありましたが、ごみの排出量は全国平均といたしましても下回っている状況にはございますが、日常生活の中で不要なものは買わない、受け取らないとか、大量調理はしないとか、そういったなかなか難しい問題もございますが、さらに削減を進めていきたいということで努力目標として掲げているものでございます。

1枚、この中に入れておいた1枚物のペーパーを参考ということで入れております。それぞれの目標値を、前回策定しておりました数字と今回改めて目標とする数字を対比しておりますので、あわせてごらんいただければと思います。

次に、リサイクル目標につきましては、これも先ほど2ページの中段あたりにございましたが、年々減少しているという状況にございます。平成26年度が15.2%という状況になっております。リサイクル率は、資源化総量をごみ総排出量で割った割合になりますが、ごみ総量は大きな変動はないものの、資源化物として市に出される量が減少しているという状況があります。結果としてリサイクル率が下がっているということで、要因は明確ではないという話にはなりますが、先ほども申し上げましたように、大型スーパーなどの屋外資源回収ボックスなど、日常的に排出が可能な状況が現実としてありますので、そういったものを利用される方も多くございます。だから、そういったことでリサイクルには実際は貢献はしていただけてると思うんですが、ただ市のデータとして出す場合はどうしても市に集められたごみの中から算定する以外にはございません。こういった状況を見ますと、下がっているという状況がありま

すが、現実、市民の方はリサイクルには十分積極的に参加させていただけてるというふうには私の方は考えております。

このような状況の中で、改定前の目標数値は24%でしたが、現状の推移を見据えて分別排出や焼却灰の有効利用などを推し進め達成する目標として、18%という目標を立てさせていただいております。

それから、最終処分目標につきましては、可燃ごみ量の削減と、それから焼却灰のセメント原料化の利用によって処分量の低減を図っていくということを目指しております、目標値を1,000トン以下に立てていきたいというふうに考えております。

4ページ、最後のページになりますが、ごみ処理の計画につきましては前回の改定前の計画を踏襲しながら、基本方針としてごみ量の抑制に向けて現在の排出方法であったり、それから資源化物の回収方法を維持しながら、市民との協働によりまして本計画の実現に取り組んでいくものでございます。

収集運搬計画につきましては効率的な収集体制、それから中間処理計画におきましては資源化物の転換、焼却残渣の有効利用への推進の取り組み、施設整備計画として施設の延命化を含めた維持管理、運転方法の見直しなど、新しい施設の整備事業計画も含めたごみ処理計画の指針としているというところでございます。

駆け足のような御説明にはなりましたが、以上で本計画の概要計画について説明を終わらせていただきます。

○委員長（原田素代君） ありがとうございます。

委員の皆さんから、新しい計画書ですので何かお気づきの点や御質疑がありましたらお願いします。

じゃあ、小田委員、どうぞ。

○委員（小田百合子君） 委員長、今説明してくださった資料、これはどこに向けてつくられた分ですかということを、まずお尋ねします。

○委員長（原田素代君） はい、黒田課長お願いします。

○環境課長（黒田靖之君） 説明の中にもさせていただきましたが、赤磐市が今後ごみを進めていく上で、こういったバックボーンといいたいまいしょうか、中心になる方向性を示したものでございます。ですから、それぞれの皆様方から排出していただくごみに対して、市としてそれを削減していくためにどういった施策をやっていくか、これを削減するためにどういった市民の方の協力を得られるか、市のほうで委嘱しておりますリサイクル推進委員さんであったり、そういった方々を取り組んでいながら、目標に邁進していくという形の計画でございます。

○委員長（原田素代君） ですから、対象は誰ですか。

○委員（小田百合子君） この資料等を誰に向けて説明したり。私たちは今説明を受けましたよね。

○環境課長（黒田靖之君） はい。

○委員（小田百合子君） 誰に向けて説明するのか、そして例えば市民全体に配るとか、そういうことをお聞きしたんですけども。

○環境課長（黒田靖之君） はい、失礼しました。

これは計画といえども、市民の方がかかわる必要が当然出てきますので、まだ抜粋した形にはなろうかと思えますけど、広報等、ホームページ、そういったものを活用して市民の方に広報していきたいと考えております。

○委員（小田百合子君） はい。

○委員長（原田素代君） はい、小田委員、どうぞ。

○委員（小田百合子君） それで、これよりもまだわかりやすく簡略にされるっていうことだったらいと思うんですけど、余りにも一つ一つが、リサイクル率の向上を目指すとかいろいろ書いてありますけど、最終的な処分のことがこの後どうなるのかということが一切説明されてないですよ。要するに最終処分場、これ市長に聞いたほうがいいですかね。最終処分場は、いつからどういうふうに進められるんですか。

○委員長（原田素代君） はい。

○委員（小田百合子君） いいですか。

○委員長（原田素代君） はい、市長お願いします。

○市長（友實武則君） はい、委員長。

○委員長（原田素代君） はい、友實市長。

○市長（友實武則君） 最終処分場の計画についてのお尋ねでございます。これは、これまでも市議会本会議場でもお答えさせていただいてるんですけども、地域の方々の同意、いわゆるコンセンサスがまだ得られていない状況だということではございます。しかしながら、赤磐市の一般廃棄物の処理については不可欠な施設ということには今後も違いございません。したがって、これから赤磐市として地域の皆さんにコンセンサスを得るべく、これまで同様あるいは以上に地域の方々への説明、働きかけをさせていただいて、一刻も早く建設に着手していくことができるというふうに思っているところでございます。

具体的な目標年数等は、やはり地域の方々のコンセンサスが得られない状態でいついつまでに建設に着手する、あるいは完了を目指すということは、今ここで申し上げることではないというふうに認識しておりますので、御理解よろしくお願いいたします。

以上です。

○委員長（原田素代君） はい、小田委員。

○委員（小田百合子君） もうそろそろそういう悠長なことではいけないんじゃないですか。市長が現に動いてらっしゃる姿は余り、ほかの議員の方もそうですけども認識がないですから、本当に働きかけをしっかりとされてるかどうかということをお尋ねしたいと思います。

○委員長（原田素代君） はい、市長。

○市長（友實武則君） 働きかけは、私も現地のほうへ出向いて地域の方々との協議に参加させていただいております。昨年度も日にちは記憶にないですが、熊山の英国庭園の会場を借りたり、そういったところで説明会、あるいは説明会では集まってくれないということなので、市長対話室という形でこの話題を中心に協議をさせていただくような会も催させていただいております。そのほかにも、関係の区長の皆さんとの協議等もさせていただいておりますけれども、合意に達するような状況にないということでございます。

以上です。

○委員長（原田素代君） 小田委員。

○委員（小田百合子君） 濟いません、何回も。

やっぱりもう少し本気になっていかないと、地区の人たちが来て要らんって言うようなそういったことを前にお聞きしたことありますけども、やっぱり日参してでもお願いして始められるように動いていただかないと、これはトップセールスとして大事なことだと思うんです。職員だけに任せるんじゃなくて市長みずからが、本当に大事なことですから、先に進めるために本気を出してやっていただきたいと思います。

○委員長（原田素代君） はい、友實市長。

○市長（友實武則君） はい、委員長。

全くそのとおりでと思います。私も地域の皆さんに、事あるごとにお会いしてお願いをする、御理解を求めるということをこれまで以上にさしていこうというふうに思っているところでございます。ぜひ実行させていただきますので、よろしく願いいたします。

○委員長（原田素代君） いいですか。

○委員（小田百合子君） はい。

○委員長（原田素代君） 丸山委員、はい、どうぞ。

○委員（丸山 明君） ごみ処理の3ページのごみ処理の課題というところで、新しい施設ができて、集会所についても資源化、リサイクル化というようなことができる施設として新しく稼働、去年4月からやって、僕も気にしてて、新聞にも載りました。リサイクルセンターの、非常に評判がよくてうまく使っていただいているというふうなことも記事がいろいろと出ておりました。赤磐のリサイクルプラザ、1日の利用者が5,000人を突破した。

○委員（小田百合子君） マイクが入ってないわよ。

○委員（丸山 明君） 5,000人突破したというようなことが入ってました。市長さんが花束を差し上げてると。ことしの1月14日の新聞です、山陽新聞。というふうに、僕も実は何でこんなこと言ってるかという、3年前の私が議員になった年に、その年の12月の議会で一般質問もさせていただいて、まだその当時計画、工事をされてたときなんですけども、そのとき覚えてられると思いますけど、小田課長さんで。岡山市の東部のリサイクルプラザに私も行って

写真撮ってきて、利用率とかいろいろなことも調べてきて質問もさせていただいたんですが、非常にリサイクルがうまく稼働してる施設だというふうなことをお聞きして調べてきたんですが、そのとき、重要なことは市民の方と協働でリサイクルを進めていけば物も集まるし、リサイクル率も高くなるし、そしてあそこにどンドン市民の方も親しんで来ていただける施設だと。それだけ新しい施設としてオープンしたわけです。ですから、そのとき申し上げたんですが、例えば4月2,771人、5月2,673人みたいに、そのとき質問したんですけど、とにかく意見を含めて言ったんですけど。そういうふうな期待したほどの、まだ状況にはどうも、さっき申し上げたんですが、利用者が5,000人突破したというような話でしたけど。西大寺の施設でもそのぐらいの人が毎月来て回しては、古い衣料品だとかおもちゃだとか自転車だとか、さまざまな物を持ち込まれてやってる。ちょっと短く言いますけど、そういうことなんで、まだまだ利用する、うまくやる計画を実施されればとってもいい場所にあるわけですから、もっと稼働率高めることもできる。そして、再利用率を高めることもできるというふうに思っていますので、僕らもボランティアのグループ持ってますけど、そういう人たちに例えば働きかけて、いろんな、吉井からも、多少の遠隔地からでも来てもらって、ただで持って帰れるもの、あるいは本だとかさまざまなものが考えられますんで、ぜひ具体的にそういう計画に落とし込んで、また御披露いただけたらいいなというふうに思っています。これも意見ですけども。そこまでの具体的なものは今回はもちろん出されてないんですけども、ぜひ考えて、知恵はいっぱいあるはずですから、ぜひお願いいたします、要望です。

以上です。

○委員長（原田素代君） はい、福木委員。

○副委員長（福木京子君） 3ページのごみの減量目標で、家庭系ごみの分が幾らから496.7グラム目指すんですか。その数値は書いとんかな。家庭系は……。

○委員長（原田素代君） 一番左の説明。

○副委員長（福木京子君） いや、ちょっと答えて。

○委員長（原田素代君） 黒田課長、いいですか。

○環境課長（黒田靖之君） 家庭系の幾らから目指すかということでございます。これにつきましては、522.8グラムから5%の減ということの目標にしております。

以上です。

○副委員長（福木京子君） それから、いいですか。

○委員長（原田素代君） はい、どうぞ、福木委員。

○副委員長（福木京子君） それはわかりました。

それで、リサイクル目標の関係で、実際に市民がリサイクルしっかりしてるんですか、説明があったように……。

○委員長（原田素代君） 丸山さん、カットしてください。

○副委員長（福木京子君） お店なんかによく、しっかり持っていったるんじゃないかと思うんですが、その実態の把握で、それを何らかわかるような形にするというのは難しいんでしょうか。そこまでみんなが協力をしてると思うんですけど、それがわかるような数値があらわれればそれだけみんなよう協力してくれてるというのがわかるし、せつかくやっってるのにリサイクル率が下がるというのが、何かこの数字だけ見たら腑に落ちないようなところがあるんで、何かその辺の、もうちょっと研究していただいて、本当のリサイクル率がわかるようなことを研究していただけたらなと思うんですが、どんなものでしょう。

○委員長（原田素代君） 黒田課長。

○環境課長（黒田靖之君） おっしゃるように、市民の方は市のほうへ出すものプラス、スーパーなんかの店頭回収ということでされてます。当然、その目の前のゆめタウンさんにしても、駐車場の一部に計量器を設けた形で、特に重たい雑誌、そういった本などの回収もやります。そこは特にポイントがつくような仕組みのようなんです、それぞれに生活の一部に使われるということで皆さん活用されてます。赤磐市のみならず岡山市の近郊、平島のあたりでもそういった形で古紙回収をやるというような形で、同様な形をとられております。現実にスーパー等で、どういった形で数量を把握してるかというものの実態調査ができれば、もちろん赤磐市の中の事業さんでやられてるというのが把握しやすいのはあるんですけど、それぞれのところでそれをまとめて出していただけるかどうかという確認すら、当然今の時点で私どもはまだやってません。それが今後できるかどうかというのは不透明なところもございますが、以前から資源回収団体さんにお世話になったときがありましたけど、それについては、そういった出される先の事業者の方にお聞きして、それをリサイクル率に反映できるような形で情報収集というのは毎年やってるんですが、お店の方の部分のお手間の部分も実際にはあるかと思いますし、その形がはっきりできている形かどうかはわからないんで、検討の材料には必要なかなとは思っておりますけど、これを今後やれていきますよということは今ここでは明言できませんけど、片隅には置いて検討したいとは思っています。

○委員長（原田素代君） はい、福木委員。

○副委員長（福木京子君） 大変でしょうけども、事業系のごみの排出についてもできるだけ削減をという、市としてもお願いをしていったる状況があると思うんで、そういう話の中で全体をつかみたいという意味で御協力を、いろいろ話しする中で検討していただけたらなと私は要望しておきたいと思えます。岡山県でも他の自治体もどういふふうになってるか、先進的な自治体もリサイクル率を正確に出すにはどういふふうなことをしてるか、研究していただけたらなと思えます。

○環境課長（黒田靖之君） 委員長。

○委員長（原田素代君） はい、黒田課長。

○環境課長（黒田靖之君） ありがとうございます。

御意見として持ってお伺いしておきます。

岡山市であったりとか、そういったところが実際そういう店舗の部分をどういった形で把握できているのかというのも、うちが今後できるかどうかの参考にもさせていただきたいと思えますので、助言としてお伺いしておきます。ありがとうございました。

○委員長（原田素代君） ほかの委員の方はないですか。よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（原田素代君） じゃあ、私のほうからもずっと懸念をしておりました、先ほど小田委員の御発言にもありました最終処分場の問題なんですけれど、結局先ほどの市長の御答弁では、この3年間と同じスタンスで取り組むという御回答だったわけです。一生懸命熱意を持ってという思いとしては強くお持ちだというのは通じるんですが、実は私きのう新本部長ともお話をしてるんですけど、そもそも十二、三年前には広域であそこはやろうと、1市12町でやろうと、約13万トンの、要するに備前や和気や、そういったよその町のごみもあそこで燃やし、リサイクルし、最終処分もするっていう候補地としてあそこあったわけです。そのための環境アセスもしてるわけです。そういう歴史があって、あそこが結果として今回の新しい焼却施設の中には組み込めなかったのであそこに最終処分地を持ってくるという経緯がある中で、私の中ではもうちょっと執行部のほうで工夫をしていただきたいと思うんです。たしか市長とも最初のころにお話ししたと思うんですけど、あそこを単なる迷惑施設ではなくて、例えば蛍の里にする、児童の環境学習の場にする、あずまやなどを建てる、周辺をそういう形で整備する。そういった形であの施設が来ることが地元にとって最終処分地を抱える一帯ではなく、環境アセスに関して環境学習や子供たちもそこに学びに行けるような施設として考えられないのかなと。市長もぜひそういう方向で検討したいとおっしゃってたわけです、あの時点では、覚えてらっしゃると思うんですけど。要するに、幾ら3年間やったことがこの1年間またやったところで果たして解決するとは思えない。だから、こちらの打つ手を、要するに切り札をどう準備するか、こちらがどうイメージするかって問題ではないかと、私は思ってるんです。恐らく永久にこの問題は市長がおっしゃるようなスタンスであれば平行線をたどらざるを得ないと思います。

それともう一つです。いわゆる財政的な裏づけです。当初、要するにあそこに予定していた時期にできていた場合の廃棄物を搬出している経費と、あそこでできて運用されている経費がどのくらい変わるのか。当然、最初の建築や設備投資額は大きいんですけど、それが5年、10年、ランニングしていったら当然よそへ持っていくよりは安くなるわけです。それが、双方の計算をした上で、例えば5年先には赤磐市でやったほうが安いんだと、もしくは10年先には赤磐市がやったほうが廃数量としては安くなるっていう、そういう説得力のある数字がまず準備されてほしいんです、アクションプランはやってるんだから。ですから、経済的な裏づけと、それからあその魅力と、その2つをもってすれば例えば財政的には5年先だとなった

ら、じゃあ5年先には何としてでもさせていただきたいということが言える思う。今の市長の皆さんの地元の意向を考えると目標を設定できないって、そりゃわかります。お願いしますと言っておいていつにはやるぞなんて、そんなばかげた説明があるかって言われるのは当然。だけど、そこには理由がないから期限が切れないわけですよ。でも、財政的な見通しで、この時期までにやらないと赤磐市としてのごみの費用負担がアクションプランの中では膨大になってこれではやれませんか。5年かかって待ったら、待ってくださいと、それまでには何とかしますということが財政的な裏づけがあるのですっていったら、熊山の人たちの意向だけでは決まりません、赤磐市民の意向です。赤磐市民が赤磐市の財源を、税金をどう使うかって問題なんですから。まして、環境的にその付加価値を高めることが単なる最終処分場ではなくすることが、これは赤磐市民全体の中でもメリットとして大きく評価されると思います。要するに、山の中のごみ捨て場として位置づけるのか、みんなが足を運んで子供たちがそこで学ぶ、遊ぶ、3世代交流ができる里山にする、そういうプランと財政的な裏づけを両方セットにして説得していくっていうぐらいの知恵がないんですよ、今の市長の御答弁を聞くと。このままやって3年間できた、だから3年間よっぽど手抜いてやったんですかっていう話になっちゃう。3年間一生懸命おやりになってできなかったことは、この1年で同じようなスタンスじゃ私はできると思えない。それだけ深刻な問題だと思ってます。だから、いろんな経緯が過去にありました。だけれど、それも含めて市長は申し送りもお伺いされてるだろうしわかっているだろうから、そういうことを含めて知恵を使っていたらいいと思います、いかがですか。

市長。

○市長（友實武則君） はい。

○委員長（原田素代君） はい、友實市長。

○市長（友實武則君） 知恵を使うというのはもっともな御意見で、そのとおりだと思います。それに対して何ら異論もありませんし、同じ方向性です。しかしながら、今の熊山地域の私どもが何度も何度も足を運んで地域の方々との対話の中で返ってくるのが、そういった知恵を披露していくというような状況にありません。入り口で今拒否をされている、そういう状況でございますので、そういった条件とか、こういった環境整備をするんだとか、そういったこととお話しするいとまがないというような硬直状態が続いているということでございます。話を聞いてくださる方もおりますので、それはそういった説明会とか、そういったところでない平場の協議の中ではお話しさせていただいております。しかしながら、全体としては広域のときの議論、あるいは熊山で病院の診療所か、そういったことに対するいわゆる反発等で入り口論で今非常に厳しい状況が続いていると言わざるを得ない、そういった状況です。しかしながら、それでどうにもならないという話で帰ってきてたんじゃ意味がありませんので、粘り強く、そういった中心となってる方々への働きかけ、お願い、そういったことを粘り強くやって

いくことが今我々のできる一番のことかなということやらせていただいております。そういった環境等の話をする段階もやがては来るかと思いますが、それに向けての今、一汗かかにかいけない大事な時期と思っております。

以上です。

○委員長（原田素代君） 私だけなんですか、政治的に非常に解決していこうという姿勢しか聞こえなくて、もっと戦略的に赤磐市民にもっと依拠していただきたい。市長の今の対象を見て目ってというのは、当事者の人たちしか見てらっしゃらないとしか思えない。赤磐市政としてごみの最終処分場をどうするのかというスタンスを一方できちっと持っていることで、皆さんに説明ができるのではないかと思う。友實さんの代では絶対無理みたいに聞こえてしまいます。赤磐市政としてごみ計画の中で、こんなプランで最終処分場をやっていききたいというプランが出されるべきなんですよ、ここの中に。その上で話をしなければ、3年間やって煮詰まったことが、この1年間熱意を持ってやろうが持たないでやろうが変わらないと思う。何にもこちらがカードを切らないんだから。だから、市民を見てください。熊山のピンポイントの人たちだけで解決しようとしてるところに私は限界があると思う。赤磐市政として、ここはこういうふうにしたいというのを、まずビジョンを打ち出されないと、皆さんだって、市民の多くの方たちの思いだって生きないでしょ。地域の一部の人たちが満足するための施策じゃなくて、赤磐市政として最終処分をどうするかっていう議論なんです、本来は。それがいいんですよ、ここに。それでは幾らやったら無理です。そういう俯瞰的にというか、市長さんなんだから、市政の立場で物をきちんとプランニングして、3年間できなくてまだ時期を言えませんか、こんな現実ありません、行政だったら。やっぱり何らかのどこかで節目を切って、説得力のあるデータや数字を出されて、市民がそこでどう思ってくれるかっていうことを考えていくようにしないと、いつまでも対象者と1対1の解決で進めようなんていうのは絶対解決しないと思います。それは考え直していただきたい。最低アクションプランやってるんだから、費用対効果で今の財政状況でこのままだらどうなるかっていうのを、2つのプランを比べること、それからそういった環境学習ができるような整備ができるのにはどのぐらいの費用がかかって、どんなものができるかっていうこと、その2本柱を出されたらどうですか。それは、全市民に、熊山の方も含めて。どこかで切りかえないと、このままやったら煮詰まったものが変わるとは思えない。それについてどうお思いですか。

はい、友實市長。

○市長（友實武則君） 総論と各論の話だと思うんですけども、特にこういった処分場については、これまで全国の事例を見ても、特に設置をしようとする地域の理解をなしに進むことはできないというのが私の認識でございます。総論としては、赤磐市としてどうなんだという、原田委員のおっしゃるとおりです。しかしながら、その地域の賛同があつての事業だと思っております。それを語るといいますか、コンセンサスを得ずに進めて頓挫してる処分場計画

というのは世の中にたくさんございます。そういったことにならないようコンセンサスを得ることが先決ということで、そのための条件整備をするためにそのほかの事業もしっかりやらせていただくというふうに思っているところでございます。

以上です。

○委員長（原田素代君） わかりました。平行線だということがよくわかりました。

ただ、1つだけ確認したいんですが、市長は来年の3月までですが、来年の3月までに一定のめどを出すというおつもりがあるかどうかだけお聞きします。

はい、友實市長。

○市長（友實武則君） 来年の3月と言わず、これは本当にすぐにでも地域の方のコンセンサスを得るよう最大限の努力をしていくこと、これは間違いございませんので、それ以上のことを今ここで申し上げることはできません。

以上です。

○委員長（原田素代君） ありがとうございます、済いません。

じゃあ、廃棄物処理計画はよろしいですか、以上で。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（原田素代君） そしたら、福祉課のほうお願いします。

○市民課長（作本直美君） 委員長、市民課作本です。

○委員長（原田素代君） はい、作本課長。

○市民課長（作本直美君） 市民生活部その他の案件で、赤磐市国民健康保険税条例の一部を改正するについて、平成28年3月31日専決処分とさせていただいている件について御説明をさせていただきます。

お手元の市民生活部関係の資料2ページをごらんになってください。

こちらの条例の一部を改正する条例につきましては、平成28年度税制改正によりまして、地方税法施行令等の一部を改正する等の政令が、本年3月31日に公布され、4月1日から施行されたことに伴いまして平成28年3月31日付で専決処分を行ったものでございます。

主な改正点といたしましては、国民健康保険税の課税限度額及び軽減判定に用いる所得基準額の引き上げ、並びに減免申請期限の延長というところでございます。

今回の条例改正は、平成26年度から3年連続で行われているものでございまして、25年12月に成立いたしました社会保障改革プログラム法におきまして、国民の負担の公平を確保する観点ということから、段階的に引き上げているものでございます。

具体的には次ページをごらんいただきたいと思います。

まず、国民健康保険税の課税額につきましては、医療給付費分の限度額を52万円から54万円に引き上げております。また、後期高齢者支援金分、こちらにつきましてはその限度額を17万円から19万円に引き上げておりまして、介護納付金分につきましては16万円に据え置きというこ

とで、課税限度額合計が85万円から89万円に変更になっております。

次に、その下の国民健康保険税の軽減につきまして、7割、5割、2割軽減のうち、7割軽減につきましては変更がなく、5割軽減につきまして、被保険者の数に乗すべき金額を26万円から26万5,000円に、それから2割軽減につきましても、今の被保険者の数に乗すべき金額を47万円から48万円に引き上げるということになっております。

また、この条例改正を機に国民健康保険税の減免申請の期限を市税に準じて、今まで国民健康保険税につきましては納期限前7日までということでありましたが、こちらを他の市税と同様に納期限までということに延長をしております。

こちらの専決処分につきましては、6月定例議会におきまして報告の予定とさせていただいておりますので、よろしくお願いたします。

以上でございます。

○委員長（原田素代君） ありがとうございます。

御質問がありましたら。

○副委員長（福木京子君） はい。

○委員長（原田素代君） はい、福木委員、どうぞ。

○副委員長（福木京子君） これは6月議会で議論するから聞かんほうがいいかな。人数的なものすぐ出る。

○委員長（原田素代君） 専決処分だから。

○副委員長（福木京子君） 聞いてもいいんですか。

○委員長（原田素代君） どうですかね。構いませんよね。

○副委員長（福木京子君） どのくらいな人が人数的にこれに当てはまるか。

○委員長（原田素代君） 対象者。

○副委員長（福木京子君） はい。

○委員長（原田素代君） じゃあ、作本課長。

○市民課長（作本直美君） 27年度の賦課の状況から実績で大体申し上げますと、軽減のほうでいきますと、7割軽減世帯が1,771世帯、27.1%、7割は今回変更がございませんでしたが、5割軽減世帯につきましては1,074世帯、16.4%、2割軽減世帯が今現在857世帯で13.1%ということになっております。

それから、超過世帯につきましては、医療給付費分につきましては今106世帯、後期高齢者支援金分につきましては104世帯、介護納付金につきましては18世帯という状況で税務課より伺っております。

以上でございます。

○委員長（原田素代君） はい、福木委員。

○副委員長（福木京子君） 最後の個々の課税限度額の今世帯言われたけど、その世帯が引き

上げるとのことですね。

○市民課長（作本直美君） はい、そう……。

○副委員長（福木京子君） プラス2万円。ちょっとその辺。

○委員長（原田素代君） もう一度、じゃあお願いします。

○市民課長（作本直美君） 27年度、今の限度額におきましてはこちらの世帯が対象となっております。これらの中で、さらにその上限に当たる部分につきましてはふえていくということになっております。全ての方がそこかどうかということは、こちらでは申し上げられません。

以上でございます。

○委員長（原田素代君） よろしいですか。ほかの方もよろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（原田素代君） そうしましたら、じゃあ次をお願いします。

○子育て支援課長（国定信之君） 委員長、子育て支援課国定。

○委員長（原田素代君） はい、国定課長をお願いします。

○子育て支援課長（国定信之君） それでは、子育て支援課から赤坂地域保育園の統合事業の進捗状況について御報告をいたします。

保健福祉部資料の1ページのほうをごらんください。

まず、第1に建築設計委託期間の変更ということで、現在保育園園舎の建築設計の委託業務のほうを株式会社宮崎建築設計事務所に委託しておりまして、契約の始まった8月28日から設計を進めてまいっております。この中で初めての認定こども園ということで、よりよい、そして充実した施設を目指すために、今まで就実こども園等の先進こども園の視察を行うとともに、保育園の園長さん、それから調理員さんの意向を取りまとめて検討を重ねてまいりました。また、単に図面による検討だけではなく、先日御披露しました模型の作製を行いまして、調理スタッフ等が動線を考えてどういった施設にしたらいいかというようなことにも時間を費やしまして、徹底的に設計事務所、保育スタッフ等が一丸となって協議を行ってまいったところ、当初予定していた設計の期間である2月末から2カ月の期間が必要となっております。このことから、設計の期間を今月4月末までに延長いたしまして設計のほうはさせていただきたいと考えております。そうなりますと、年度をまたぐことになりまして、繰越事業ということになります。これにつきましては、10月に公立保育園の事業につきまして繰越明許費のほうを計上しておりまして、その中でこのものについても対応させていただきたいと考えております。

続きまして、建築工事の設計の金額につきまして説明をさせていただきます。

資料にありますとおり、園舎の建築工事の当初予算は2億4,500万円を計上しておりますが、先ほど申し上げましたとおり認定こども園ということで、より充実したものを検討する中で、最終の設計のほうをまとめているところですが、工事の見込み額が約5,500万円ほど増加

が見込まれることに現在なっております。

主な増加要因といたしますと、こっちに掲げてありますように保育室、遊戯室等の床面積の増加ということで、約70平米増加となります。これは、認定こども園ということで、幼稚園利用者の入園希望をかなえられるように、特に5歳児の保育室の面積をふやすとともに、遊戯室については年齢が異なる園児が集まって給食を食べるランチルームになることから、そのあたりの規模も考えて増加をさせて十分なスペースを確保することにしております。そのほか、調理室や職員室を拡大し、全体として70平米の床面積の増加によりまして、それによる関連の整備する工事も含めまして2,100万円の増加が見込まれております。

続きまして、くい基礎の採用ということですが、当初、建物が鉄骨平家建てで軽量であるということが想定されることから、柱状の改良工法、これは軟弱な地層が深くて表層の改良がコスト面で適切でない場合に地盤改良を行って、支持層に到達させるというふうなことを考えておりましたが、実施の設計が進むにつれまして、柱の位置であるとか張りつけが明らかになるにつれまして、特にスパンが長いところを受け持つ柱については大きな力が加わることが判明いたしまして、それを支持するためにくい基礎の採用ということが必要になっておりました。ただ、コスト性と、それからもともと地盤が余りよくないところということで、これらの安定性も兼ね備えた工法ということも十分検討いたしまして、既成のコンクリートのくいを使った工法ということで採用を考えております。床面積の増加も加わりまして約1,800万円の増加となっております。

次に、遊具及び厨房機器につきましては、当初備品購入費のほうに計上しておりましたが、設備工事が必要になることから、ほか設計の中に入れたということで900万円の増加となります。

その他関係の予算といたしまして、入り口をふやすであるとか3歳未満のテラスをつくるであるとか、そういったことで700万円の増加ということで、現在のところ5,000万円超の増加ということで計画となっております。

その次に、財源の確保ということですが、これらの増加に対応するために他の工事の請負費を流用しますとともに、先ほど備品購入費のほうにも計上したもんからこちらに入れるというふうなことを対応しまして、流用を行いまして入札を対応して行いたいと考えております。入札が終わった後、入札の差金をもって、もとの費用のほうへ備品購入費等のもとのほうへ充当したいと考えております。

入札差金の関係もありますが、不足するような場合には、また補正予算のほうもできれば避けたいと思うんですが、対応をやむを得ないかと思えます。

設計費が増加いたしまして、当初の見込みと少し異なったりということになっておりますが、今回設置するこども園のほうがよりすばらしいものにするために考えておきますので、御理解をお願いしたいと思います。

続きまして、3の関連工事の推進スケジュールにつきましては、造成工事につきましては既に現在構造物の取り壊しと、それから堆積物の除去等の撤去工事を行っております。現時点で多少工事のほうがおくれておりますが、今後、工期に向けて推進をしていきたいと考えております。

それから、2行目の園舎の建築工事につきましては、6月に入札を行いまして、その後造成工事が完了する8月ごろから着工いたしまして、約8カ月の建設期間を設定して3月までの完成を目指して経過しております。

また、一番下の進入路、交差点工事につきましては、支所の前の交差点から保育園に進入する進入路と交差点の改良工事につきましては、建築工事との調整を図りながら秋ごろからの施工を計画しております。

今後、来年度の開設を目指して事業を推進してまいります。こちらを見ていただくとおり、工期が非常にタイトになっております。本市にとっても初めてのこども園ということで、皆様に喜ばれる充実したものを整備してまいりたいと考えておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

以上で説明いたします。

○委員長（原田素代君） ありがとうございます。

どうぞ、御質疑がありましたらお願いします。

○副委員長（福木京子君） 委員長。

○委員長（原田素代君） 福木委員。

○副委員長（福木京子君） 結局、当初予算と設計見込み額が5,500万円ふえるんですが、いろいろ細かく説明していただいたんですが、いろんな財源の関係でいろいろこういう充当して、その中で大体いくんじやないかと、それで不足する場合は補正予算で対応ということなんですか。そこがはっきりわからないんですが。

○子育て支援課長（国定信之君） はい、委員長、子育て国定。

○委員長（原田素代君） はい、国定課長。

○子育て支援課長（国定信之君） 先ほど委員さんもおっしゃられたとおり、工事請負費にはほかの関連工事もありますので、その工事を要します。それからまた、備品購入費のほうにも、厨房であるとか厨房機器であるとかはそちらに計上しておりました。その他の金額は備品購入をとっておりますので、そのほうから流用いたしまして入札を行うということで考えております。

○副委員長（福木京子君） いいですか。

○委員長（原田素代君） はい、福木委員。

○副委員長（福木京子君） だから、この増額については本会議でもどこまで増額するんかという指摘もあったことがあると思う、これまでの経過で。今回は全体としての予算の中でいろ

いろやって、最終的にひょっとしたら不足する場合は補正出すということですか。現在の予算の中で大体やれると。だけど、いろいろ計算してみてもひょっとして不足する場合は予算を出すということですか。

○子育て支援課長（国定信之君） はい、委員長。

○委員長（原田素代君） はい、国定課長。

○子育て支援課長（国定信之君） 当面は現在計上している予算で対応していきます。入札したことによって、それがどれだけいけるかまだ不明なんですけど、それも考慮いたしましてそれで対応すると。それでも不足するような場合は、補正のほうを考えさせていただけたらと考えております。

○副委員長（福木京子君） まあいいです。

○委員長（原田素代君） そうですか。

○副委員長（福木京子君） はい。

○委員長（原田素代君） ほかの委員の方いいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（原田素代君） 私も気にしてるんですけど、主な増加要因と増加額、特に上の2つ、床面積をふやすことによってくい基礎がまたふえて、ここが一番大きなメインなんですけど、金谷議長もおられますけど、あそこの土地の特殊性の問題で、地盤が、そういう事情があることはわかってたわけですし、床面積をふやすっていうのは確かに保育所の職員さんは広ければありがたいんでしょうけど、何かこの辺がこの2つをどういうふうにして増加させることによってくい基礎も当然必要になってきて、それによってこれだけの金額がふえるということではわかってることが本来なわけですから、そこの点についてどういう経緯の中でこういう結論を出したのかっていう説明ができないと委員会としても困るんですが、それについてきちっと説明していただけませんか。

○子育て支援課長（国定信之君） はい、委員長。

○委員長（原田素代君） はい、国定課長。

○子育て支援課長（国定信之君） 床面積の増加につきましては、先ほど説明の中で申し上げたんですけど、先進地であるこども園の視察を行ったり、それから保育園の職員の方、それから調理員さん等、それからまた現在ある保育園の他の施設なんかも参考に検討いたしましたところ、その辺の意見の中を集約しますと、当初800平米という床面積で計画しておったんですけど、それだと支障が生じるということで、安全で子供たちが過ごせて余裕を持ったものだということが必要ということになりまして、それで先ほど説明しました部屋について増加をさせていただいております。

○委員長（原田素代君） 最終的に市長さんの御判断なんでしょうけれど、じゃあこのプランやりましょう、アバウトにこのぐらいの予算で議会通していただいて進めましょうと、何かも

うちちょっと丁寧なつくり方をされないと、物すごい5,500万円で大変大きいと思うんですよ。事業が、そりゃよりよくしたい、新しいもので初めてのものでっていうのは理由にならないんですよ。やっぱり事業をする場合はきちんと、どんな事業でも行政としてはするわけで、初めてだろうがいいものをつくりたいと思うだろうが、ちゃんと計画は立てたものをそのまま進めていかないと、はっきり言ってしまえば委員会だってやめちまえとは言えないわけです。床面積を減らして柱も減らして、従来のおり5,500万円削ったものでやってくださいとは言えないでしょう、委員会としては、逆に。言ってしまえばずるいんです、執行部のやり方が後出しじゃんけんで。そういうふう思うわけです、委員会としては。だから、本来事業っていうのは、見積もりはとったけど後になっていらないとこ見たらもっとよくしたいって、そりゃ誰だって思うわけで、自分の家つくるときだっていいとこ見たら予算は外れるけどお金使ってもいいとこしたいって思いますけど、でも行政はそれがあっちゃいけないわけでしょ。だから、私としてはもうちょっと、本会議でかなり問題になると思いますし、私たち委員会としても何かだまされた感があるわけです。これだけの金額でいきますよ、はいお願いしますって言って、もっとよくしたらいいと思ったら5,500万円足が出ました、認めてくださいって言われたときに、認めませんと言いくいすわ。だから、その辺のやりようが私はちょっとおかしくないかなと、事業をやるときに。それについての自覚とありますか、そこはないですか。まず、課長にお聞きしたい。

国定課長、そのことについてお答えください。

○子育て支援課長（国定信之君） 設計額がふえたということにつきましては、当初の段階でそこまで把握して計上に努める必要があったということは感じております。

○委員長（原田素代君） 以上ですか。

○子育て支援課長（国定信之君） ただ、今回いろいろ研究する中で、いいものにしようというスタッフ等の意見もありまして、私としてはそれを変えていきたいというふうに考えて、こういった計画としました。

以上です。

○委員長（原田素代君） 部長にお聞きしますけど、部長はどのようなふうにこの判断を考えられましたか。

○保健福祉部長（石原 亨君） はい、委員長。

○委員長（原田素代君） はい、石原部長。

○保健福祉部長（石原 亨君） この事業につきましては、プロポーザルという方式でやらせていただきました。4社から提案を受けまして、この業者が非常にいい計画を出されたということで、金額的にも業者、2億円どのくらいですかね。

○委員長（原田素代君） 2億四千……。

○保健福祉部長（石原 亨君） 金額的にも適当な金額を提示されて、それでできるというよ

うなことで判断いたしましてこの業者をお願いすることにしました。その後、いろいろ先ほど説明もしましたが、内部で業者も含めて検討を加えたところ、たびたび言いましたが、よりいいものにしたいというようなことから床面積も70平米程度増加したというようなことで、金額はなるべく抑えるような設計ということで業者のほうにも注文をつけましてやりましたが、5,500万円程度の増加になるというようなことになりました。当初の提案された金額、この金額につきましてもっと精査は本当は必要だったのかなというふうには思いますが、そういう状況でふえたということでございます。当初が、言いましたようにもう少し突っ込んだ金額精査ができればよかったのかなというふうには思います。

以上です。

○委員長（原田素代君） 善意でやってるということは前提でよくは通じますけど、行政の原則論を部長さんはおわかりでしょう。企画してちゃんと議会に諮られて決まったことは、その中でやるっていうのが前提だということを、それは業者さんともよく詰めていただくということがなくて、よりいいものにしたいからふやしたなんていう説明はあり得ないです、議会です。そんなこと言ったら何でもそうでしょう。何つくるんでもいいものしたいから何千万円ふやしましたっていうのは通用しないんです。そのためにどれだけあなたたちが業者さんと知恵を使って何とかその中でやり切るような方策を考えるかってことがお仕事なわけですから。どうも何か余り私ははっきり言って、いいものにしたいってことを理由にしないでください。そんなことは当たり前なんです。いいものにするためにお金がふえるっていうのは、誰だって何にも汗かかなきゃそうなるんです。でも、そこでどう汗かいてどういいものにするかっていうところが腕の見せどころだし、もしくは原則なわけ。部長さんがその点についてもうちょっと私は認識を改めていただきたいとします。

最後に市長にお答えをいただきたいとします。

○市長（友實武則君） はい。

○委員長（原田素代君） はい、友實市長。

○市長（友實武則君） 冒頭に言わせていただきます。これは本当に予算計上の際に、ここの資料にありますように2億4,500万円で建設工事を行うということで、予算の議決をいただいたということです。これに対して設計を組んでみたら、5,500万円もの大きな増額になるということが判明したということで、またこれをお願いするということになってしましまして、これについては本当に申しわけないという思いがいっぱいございます。この中で、増額の理由についても細かく私のほうも責任を持って協議をさせていただき、細かいところから承認を1つずつ出してきた結果でございますけども、まず当初の予算額2億4,500万円、これが甘かったかとかそういったことでは決してございません。当初の予算については設計のプロポーザルということで、プロポーザルにある施設を建設する場合には2億4,500万円、その中で明確じゃなかったものの一つにくい基礎の設計というのがございますけども、建築物そのものについ

ては妥当な見積もりで予算も計上させていただいております。その後、詳細な設計を組んでいく中で、私が現場のほうに指示したのに、設計会社、それから本庁舎にいる担当だけで判断するのはやめてくれと。ここで働く子供の目線、あるいは保育士の目線、それから厨房においては調理員の目線、そういったものを設計に取り組みでやってもらうようにという指示を詳細設計の段階で出しました。そういった中で、保育士あるいは子供の目線でのこども園として、安心して子供さんをお預かりできる施設としては、床面積、単純に70平米をふやすということにはなってますけども、細部にわたっては、例えば通路を広げるとか遊戯室の面積が足りないとか、そういった細かいことを積み上げて結果的に70平米ということになってしまいましたが、これを1つずつ検証すれば、お母さん方が安心して子供をお預けいただけるためにはここもやむを得ないのかという判断がございました。そういったことで床面積、そしてくい基礎については、床面積がふえたからくい基礎が必要になったとか、増額になったというものではございませんで、ボーリング結果を検証しながら土質条件を考慮して最適な基礎形状は何かということから設計をして、将来的にも基礎が、強度が不足して不当な沈下をすとかそういったことを防がないといけないということで、くい基礎の採用を行った結果だというふうに判断しております。そのほか、遊具、厨房機器については担当の説明のとおりでございます。

そういったことで、非常に市議会の議員の皆様におおびを申し上げながら、増額についてお認めいただければというふうに思っている次第でございます。

以上です。

○委員長（原田素代君） ほかの委員の皆さんよろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（原田素代君） そしたら、じゃあここで、40分まで休憩をとります。

午前11時25分 休憩

午前11時39分 再開

○委員長（原田素代君） それでは、休憩前に引き続き始めたいと思います。

最初に、塩見課長のほうからお願いします。

○協働推進課長（塩見 誠君） 先ほど丸山委員から御質問ございました男女共同参画セミナーの内容でございますが、御回答できませんで申しわけございませんでした。

お手元のほうに5月19日に予定をいたしておりますテーマにつきましては、そこに真ん中ほどにございますが、「ありのままを生きられる虹色社会に」ということで、プラウド岡山の代表であります鈴木先生のほうから御講演をいただくという形で、中央公民館、視聴覚室で予定をいたしておりますので御案内させていただきます。皆さんにつきましても、時間の都合がございましたら御参加していただきますようよろしくお願いいたします。

以上です。

○委員長（原田素代君） よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（原田素代君） できれば、この集会の趣旨をちゃんと説明していただきたいんですけど、難しいかな。

○協働推進課長（塩見 誠君） はい。

○委員長（原田素代君） はい、塩見課長。

○協働推進課長（塩見 誠君） 今そこにございます～人の数だけ性がある～ということで、トランスジェンダー、心と体の性の不一致というようなテーマがございまして、いろいろ男性の同性愛者、女性の同性愛者、そして両性の同性愛者、心と体が一致しない方が、いろんな方がおられます。今、そこにございますプライド岡山というのは、そういう方が集いまして自分の体験談を踏まえて、いろいろお互いで情報交換をしている団体でございます。岡山市に所在しておりますNPOの団体でありますので、そういうふうないろんな性があります。男性と女性だけじゃなくっていろんな性がございますので、今回そういうふうないろんな性があるということの認識の中で、いろいろ男女共同参画についての考えを深めていただくという趣旨で行う予定にしておりますので、よろしく願いいたします。

以上です。

○委員長（原田素代君） ありがとうございます。

よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（原田素代君） じゃあ次に、引き続きお願いします。

○子育て支援課長（国定信之君） はい、子育て支援課国定です。

○委員長（原田素代君） はい、国定課長。

○子育て支援課長（国定信之君） それでは、保健福祉部の2ページになります。認可保育所等整備・運営事業者公募結果についてということで説明をさせていただきます。

この公募につきましては、桜が丘東3丁目の市が所有する保育園用地を貸し付けて、保育施設を整備そして運営する事業者を公募するということで、ことしの1月から募集をいたしまして、一応3月11日の締め切りということで、3月16日にヒアリング審査を実施いたしました。応募事業者は1法人で、社会福祉法人岡山こども協会さんのほうが応募されております。ヒアリングを行いました結果、決定しました事業者としましては、こちらの岡山こども協会理事長齋藤忠志さんで、3月24日に決定をしています。

こちらの計画を出されている内容につきましては、園名についてはいちちょうの森こども園ということで、それに決定をされておるそうです。

それから、施設につきましては幼保連携型の認定こども園ということで、幼稚園機能と保育園機能をあわせ持つ認定こども園ということで開設をされます。

定員につきましては、最終的には90人規模を目指すんでありますが、当初は60人程度で開設

をしようという予定を持たれております。

施設につきましては、鉄骨造地上2階建で、床面積が781平米ということで計画をされております。

開園につきましては、今のところ平成29年4月1日を目的に進めていきたいという考えを示されております。

以上、こちらの公募結果についての説明といたします。

○委員長（原田素代君） はい、よろしいでしょうか、委員の皆さん。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（原田素代君） ないようです、次をお願いします。

○健康増進課長（谷名菜穂子君） はい、委員長。

○委員長（原田素代君） はい、谷名課長。

○健康増進課長（谷名菜穂子君） (3)の旧赤磐市民病院跡地活用に係る基本構想策定業務について御説明させていただきたいと思います。

進捗状況ですが、初めに済みません、訂正をお願いしたいと思います。大きい1番の(4)業務期間の期間の文字なんです、期日の期間なので大変失礼しました。そちらに御訂正ください。

それでは、説明します。

現在までの状況ですが、プロポーザルを平成28年3月28日の月曜日に実施しました。決定事業者ですが、八千代エンジニアリング株式会社岡山事務所というところで、本社は東京のほうにある会社でございます。

結果の公表を3月29日の火曜日にいたしまして、業務期間を4月5日の火曜日から12月28日ということで実施いたします。初回の協議は、4月8日の金曜日に行いました。ここで行った協議内容ですが、まず業務実施体制の確認をいたしました。それから、業務実施スケジュールということで大枠を確認しました。それから、市民ニーズ調査をやはり細かいところを実施したいということで実施方法を協議しました。それから、民間事業者の参入意向調査の実施方法を確認いたしました。それから、現時点で想定される事業手法の検討をいろいろ話をさせていただきました。

今後の予定ですが、5月の末から6月の中旬あたりで住民説明会を開催したいと考えております。内容のほうは、基本構想策定業務の進捗状況と今後の予定及び調査協力の依頼ということで、住民説明会でいつもいろいろ抽出調査だとか、そういったことをよくするんですが、やはり抽出調査をしたら、よく区長さんたちの説明会に行ったりしたら、いつどういう人を対象に調査したかさっぱりわからんということをよく言われるので、やはり住民説明会等で皆様はどういったことをしますということをしっかりPRさせていただきまして、熱心に聞いてくださった方などに中心的に調査協力を依頼したいなというふうに考えております。

6月から9月には調査等、業務内容の実施ということで、10月から12月ぐらいにはまとめて報告書が作成できたかなというふうに考えております。9月の議会のころまでにはある程度の大枠で状況を御説明させていただけたかなというふうに、現時点では考えております。

以上です。

○委員長（原田素代君） 皆さんのほうから何か御質問などありませんか。

○副委員長（福木京子君） いいですか。

○委員長（原田素代君） はい、福木委員。

○副委員長（福木京子君） 結局、市民のニーズのアンケートというのは住民説明会に参加した市民にそこでアンケートをとるということですか。

○健康増進課長（谷名菜穂子君） はい、委員長、健康増進課長、谷名。

○委員長（原田素代君） はい、谷名課長。

○健康増進課長（谷名菜穂子君） 失礼します。

説明会に来ていただいた皆さんにはもちろんなんですが、ある程度実施期間を設けまして、熊山支所周辺、それからいきいき交流センター、それから今の時点では市役所のあたりにアンケートと、それからアンケート用紙の結果を入れさせていただき箱でも用意させていただきまして、皆さんに意見を広く聞かせていただけたかなというふうに考えております。

○副委員長（福木京子君） はい、いいですか。

○委員長（原田素代君） はい、福木委員。

○副委員長（福木京子君） 結局、そしたら支所の周辺の人にチラシを、アンケートをまくんですか。

○健康増進課長（谷名菜穂子君） はい、委員長、健康増進課長。

○委員長（原田素代君） はい、谷名課長。

○健康増進課長（谷名菜穂子君） まくというよりも、どういった目的でアンケートをさせていただくかという、住民説明会でまず説明させていただきまして、それで時間を設けまして、その場でアンケートを書いて帰っていただく方もいらっしゃいますし、後日アンケートを持って帰って入れとくわというて言ってくる方もいらっしゃるかなというふうに、現時点では考えております。それから、来れなかった方もいらっしゃると思いますし、ぜひそういったアンケート書きたいと言われる方もいらっしゃると思いますので、ある程度一定期間を設けて、場所を何か所か用意してアンケートを入れていただこうかなというふうに考えているものです。

○副委員長（福木京子君） ちょっといいですか。

○委員長（原田素代君） はい、福木委員。

○副委員長（福木京子君） そしたら、人数的にはどのくらい見とるんですか。

○委員長（原田素代君） はい、谷名課長。

○健康増進課長（谷名菜穂子君） 濟いませぬ、できるだけ多いほうがいいかなと思うんです。

が、200ぐらいは集まったらいいかなというふうに考えて、200以上集まったらいいかなというふうに考えております。

○委員長（原田素代君） いいですか。

はい、丸山委員。

○委員（丸山 明君） ここには書かれてないんですけど、書かれてないことが気になるものですから、ことしじゅうに結局期間を定めて基本構想の策定が行われるということですよ。当然策定をするわけですから、計画を立てるわけですから、跡地活用をするということになりますから、実際には。ですから、当然建物を建てたり改修をしたり、さまざまな費用も想定されるわけです、現実の建物が建っていくわけですから。サービス内容も決まってやっていくということです。ですから、僕は当初の段階で、そういうことを全く未定で策定だけお願いして後は出来高払いですわみたいな話にはならんのだと思うんです。ですから、何を言っとるかという、来年か再来年には具体的なものができ上がってくるということが現実にあるわけですから、そういう市としての構想をもう少し具体化していただかないと。計画はこうなんですと、でもどねえなるかわかりませんというふうな、そんな無責任な計画はないわけです、計画として。だから、もっとそこに魂を入れて具体的に今からどういうふうなニーズが想定されるかわかってるじゃないですか。今まで過去3年間検討に検討をしてきたんです、ずっと。皆さんの住民の意見を聞いて、さまざまなことを考えて、デイサービスが要る、小規模多機能がいい、お泊まりの機能も要る、リハビリも要る、懇談会ができるようなそういうふうな施設にもしようといっぱい言ってきたじゃないですか。全部やるんですか、そうじゃないでしょ。決まったものを、ほぼこういうことをやろうということは、誰が考えたってあるわけです。そしたら、そういうものをまず固めないことにはこれで計画してくれということになるわけですから。もう何にもねえ、粹やこねえから自由に発想してくれえというて、そんな計画なんかないわけですから。そういう意味で、ちょっと長うなりましたけど、僕はそのあたりのこともあわせてちゃんと御説明をいただきながら進めていかないと、実のあるものにはなりません。また先延ばしになるだけです。だから、そういう意味で今から言うときますけど、どういうことを、この常任委員会にはもっと具体的に構想を持って、ビジョンを持って御説明をしていただきたいというふうに思います。

○委員長（原田素代君） ありがとうございます。

はい、谷名課長。

○健康増進課長（谷名菜穂子君） 丸山委員ありがとうございます。

本当に委員のおっしゃるとおりで、今までの3年間ぐらい協議したもとに今回もプロポーザルを実施しております。八千代エンジニアリングさんは、いろんなインターネットからとかそういうところから今までの赤磐市民の気持ちだとか、それから議会で協議したものとかそういうところも非常に考慮してくださった資料がたくさん出てまいりました。それをさらに

上乘せをして、総合福祉施設、複合施設というような視点で、本当に民間の方も積極的に参入してくださる、あるいは住民の方も本当に喜んで、よりいいものにとというような思いがスタッフ一同の中にも非常に強いので、そこを考慮した今回もっと一歩進んだ計画にできたらなというふうに今考えておりますので、今までの懇談会や議員の皆様がいろいろ協議して下さったことってというのは決して無駄にしない形で進めていきたいと思っておりますので、また進捗状況を御報告させていただけたらなというふうに考えております。よろしくお願ひします。

○委員長（原田素代君） いいんですか。

はい、丸山委員。

○委員（丸山 明君） お気持ちはよく今のお話でわかるんです。僕はそういう気持ちのやりとりはもちろん今まで懇談会の中でやっとなんですが、ただこれは行政が予算をもって実施する計画でございますので、そういう意味で、実際的な側面のプランというものもあわせてお示しをいただく必要があるというふうに申し上げてる。だから、気持ちは目いっぱい要望も聞いた、そういういいものつくるんだと、そこは私らも一緒ですしよくわかる話です。だから、税金を使って計画を立てて事業予算を組んで、こういうものをお示しをして、御納得いただいて喜んでいただくんだというふうなものを、具体的にこれからぜひスケジュールに落とし込んで、御説明をいただきたいというのが私の要望でございます。

以上です。

○委員長（原田素代君） 要望でいいんですね。

○委員（丸山 明君） 要望です。

○委員長（原田素代君） マイクをじゃあ済いません。

ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（原田素代君） 丸山委員の指摘はまさにそのとおりだと思うんですけど、要望ではなくてここで具体的に求めたいと思うんですが、協議内容が5項目ありますけれど、5項目が八千代エンジニアリングさんと市が、もう詰めたものができてるわけでしょ、それを委員会に出してください。だから、例えばさっき丸山委員がおっしゃったように、一体何をどうつくるつもりなのかと、求められたら全部盛り込むのっていう、過去の委員会と執行部のそういった不幸な意思疎通がない状況があったわけですから、そこをお互いが、こういうことになるんらいいいよねっていうふうにするためにも執行部が手のうち出さなきゃ。常任委員会ですよ、ここ。やっぱりこの5項目きちっと出してください。例えば市民ニーズ調査っていうの、今福木委員がお尋ねしたように200枚っていうのはどういう判断で200枚かわかりませんが、これは熊山地域住民のための跡地利用ではなくて、赤磐市民のための施設なんだという前提は、私前あえて言ったと思うんです。ていうことは、当然地域の直接的に近所の方たちの思いもありましようが、赤磐市民が、だって中西所長と話したら中西所長は赤磐市の診療所ですからって胸

を張っておっしゃってくださってますよ。熊山の診療所だと思ってないわけです、彼は。赤磐市の診療所だと思ってらんです。ですから、どうも先ほどの最終処分もありますけど、非常にピンポイントに視野狭窄的にものを見てらっしゃらないかなと思ってます。赤磐市のものから、赤磐市民はどこにいるかっつたら熊山だけじゃないわけで、最低この市民ニーズの200枚っていうのは論外だと思います。とにかく、最低協議内容の5項目、何か差しさわりのあるようなことがあれば説明をしていただければいいですけど、差しさわりのない限り、例えば業務実施、中身どう考えてるのか業務実施のスケジュールぐらいだっただけ教えてもらえないと私たちは何もわからないまま、出てきたものでまたわんさかしたくないわけです。きちんとプロセスの中でお互いの信頼関係で、ああこういうふうになってよかったねってしたいじゃないですか。そういう意味で求めたいと思いますし、市民ニーズ調査のことも見直していただきたいというこの2点について、どなたにお聞きすればいいですか、お答えください。

○健康増進課長（谷名菜穂子君） 健康増進課谷名。

○委員長（原田素代君） はい、谷名課長お願いします。

○健康増進課長（谷名菜穂子君） 濟いませぬ、業務実施のスケジュールなんですが、これはやっぱり基本構想策定業務ですので、本当に具体的に、過去ずっと協議していった複合施設をこの業務実施スケジュールで、最終的にはこれを建てようとかこういうものにしようっていうところまでを今回きっちりしたいなっていうふうに思います。そのために、まず、今までも随分協議してきたんじゃないかっていうふうに先ほど言われたんですけど、それをもっと裏づけをとれるようなアンケートを、きちんとしたものを数字でもお示しできるようにしたいなと思ってます。

○委員長（原田素代君） 谷名課長、濟いませぬ。要するに、この5項目の文書を出してくださいということについてのお返事を求めています。

○健康増進課長（谷名菜穂子君） はい。

5項目の文書。

○委員長（原田素代君） はい、じゃあ岩本参与。

○保健福祉部参与（岩本武明君） 協議内容等につきましては、細かくこの委員会に対してやっていきたいと思っております。本会議でも、市の意向といたしましては小規模多機能、デイサービス、介護予防のものをやりたいということは、本会議でもこの委員会でも説明をさせていただいております。今回の分に関しましては、それにプラスアルファで、こういったものをすれば民間の業者さんが参入していただけるかっていうことも、今回の計画の調査の項目には入っております。それが(4)に当たるわけですが、こういったようなもので資料で御説明をさせていただくようにしたいと思っておりますので、この委員会のほうへ逐次報告をさせていただいて事業のほうは進めてまいりますので、よろしく願いいたします。

この資料をお出しするのは、いつ……。

○委員長（原田素代君） 早急に。本来なら、きょう持ってきてほしいものです。

○保健福祉部参与（岩本武明君） わかりました。

○委員長（原田素代君） ですから、きょうに無理でしたら次回でもいいですけど。

○委員（小田百合子君） よかったらきょうもらいましょうよ。

○委員長（原田素代君） どうですか、きょうじゅうに用意ができるものは用意してください。後でいいですから。

はい、岩本参与。

○保健福祉部参与（岩本武明君） 協議内容につきましてはこれから取り組んでまいりますので、前回の協議の打ち合わせした内容につきましては御説明できると思います。

○委員長（原田素代君） これ文書が残ってないんですか、1から5まで。

○保健福祉部参与（岩本武明君） いや、文書というよりは……。

○委員長（原田素代君） 確認されてるっていったら取り交わしている文書があるんじゃないんですか。

○保健福祉部参与（岩本武明君） 資料のほうがございますので、そちらのほう。

○委員長（原田素代君） 資料。

○保健福祉部参与（岩本武明君） はい。

○委員長（原田素代君） だから、さっき岩本さんおっしゃったけど、この3点、小規模多機能と3つぐらいずっと言ってきましたよねっていうの、それちゃんと書いてください。書面がないんです、私たちには何にも。やりとりで耳に入れてるだけですから、今回の策定業務の中の柱としてこれを考えてますと、それプラスこういう調査によってこういうものを入れるかもしれないと、それでそのためにはこういう調査をしますと、それがこの4点だと私は思っているので、そういう中身のものを書面としてここに出してください。それをもとに議論をしていきましょうという話をしてるわけです。

はい、岩本参与。

○保健福祉部参与（岩本武明君） 先ほど言った3つの施設以外のものは、これから調査をしてどういうものを入れていくかというのをやってまいりますので、3つ以外のものについてはまだ具体的なものはございません、現段階では。

○委員長（原田素代君） わかっております。

○保健福祉部参与（岩本武明君） はい。

○委員長（原田素代君） だから、そういうこともしますという、要するにここの協議内容の5項目について書面にしてくださいということ求めています。よろしいですか。きょうじゅうに出せるものがあるんですか。きょうじゅうに出せなければ、また改めて。

はい、岩本参与。

○保健福祉部参与（岩本武明君） まとめさせていただきまして、本日中には無理ですので後

日見ていただきたいと思います。

○委員長（原田素代君） どうしましょう。ポストにします、それとも委員会まで、どちらがいいですか。委員会に出してもらいましょうか。

○委員（丸山 明君） だから、まとまった段階でもかく出してください。

○委員長（原田素代君） ポストしかないですよ。いいですか、時間差が出ますよ。とりに来るという。

○委員（小田百合子君） 郵送してもらったら。

○委員長（原田素代君） 郵送してもらおう。

○委員（小田百合子君） はい、そうしてください。

○委員長（原田素代君） じゃあ、お手数かけますが。わかればとりに来ますし。じゃあ早速そうしてください。それをもらっていただいてからですね。この委員会で議論というもの。

じゃあ、ほかの委員さんよろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（原田素代君） じゃあ、執行部のほうからあとありましたら。

○保健福祉部長（石原 亨君） はい、その他を。

○委員長（原田素代君） お願いします。

濟いません、時間が来てますけど間もなく終わると思うので御協力をお願いします。続けさせていただきます。

○健康増進課長（谷名菜穂子君） 委員長、健康増進課谷名です。

○委員長（原田素代君） はい、谷名課長。

○健康増進課長（谷名菜穂子君） お手元に提出しております資料は、3月の委員会で宿題となっていた熊山診療所の医療用消耗機材のアイテム数の一覧表です。また、診療所のそれぞれの部局の専門スタッフのほうに確認をとりましたが、病院時代とは違って現在手術とかそういったことも行われず、このような消耗機材を診療所になって無駄にしたような事例は思い当たらない、一件もないということでしたので御報告させていただきたいと思います。

以上です。

○委員長（原田素代君） じゃあこれは各全議員の皆さんのポストへ配付をお願いします、後ほど。

ほかに執行部から。

○社会福祉課長（国正俊治君） はい、委員長。

○委員長（原田素代君） はい、国正課長。

○社会福祉課長（国正俊治君） あかまつ荘のその後について進捗状況をお伝えします。

あかまつ荘の改修工事内容につきましては、以前から十分御説明をさせていただいておりますとおり、デイサービス事業所として改修工事を行いまして長寿命化を図るものでございま

す。吉井地域の在宅介護サービスの提供体制を確保するというものでございます。現在、隣接するローズガーデンのほうで改修工事をされております。それが終わるころの8月ごろに着工できるように準備を進めているところでございます。

また、先般指定管理者である社会福祉法人江原恵明会とこれから先の効率的な安定的な運営ができるように、新たに隣接するつつじ荘も含めた検討を始めさせていただいております。当地域の今後の介護需要、それから国の制度、動向を見きわめまして、赤磐市の介護保険事業計画に基づいてどのような運営の仕方がベストなのか、よいかというのを十分協議、検討したいと考えております。

また、工事につきましては、業者が決まった時点でまた書面に書いて御報告のほうをさせていただきたいと考えております。よろしく申し上げます。

○委員長（原田素代君） 以上。

別によろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（原田素代君） そしたら、何点か委員長のほうから報告事項があります。

今皆様にお配りした調剤技術料をめぐる課題、院内処方、院外処方の比較というペーパーを見てください。

実は私は、せんだって金曜日かな、先週の、中西所長のほうにお話をしたいというふうにご声をかけていただいたので、15日に診療所のほうへ出向きましてお話をしてみました。その中の一つの報告でございますが、この紙をいただきました。これを見ていただくとわかりますように、上のところに2つ目に院内処方、3つ目に院外処方とありますが、一番下を見ていただくと金額の差がこれだけあると。中西先生がおっしゃるには、自分としては、一番下の自己負担見ていただくとわかるように、赤磐市民にとっても非常に金額的な負担が大きいし、院外処方すると。もちろん赤磐市の国保にとってもそれだけ負担が大きくなるのだから、赤磐市立の診療所としては院外処方をやらずに院内処方が続けたいのだと、非常に説得力あるお話をされました。彼の中で、じゃあそのために何が必要なのかちゅうたら、優秀な薬剤師が要るんだけど、優秀な薬剤師は民間が物すごく手当てが高くて、ヘッドハンティングを含めてどんどんとられちゃうと。なかなか公立のこういう公設病院や診療所にはいい薬剤師を得ることができなくて困ると。中西先生は、とにかく、だったらじゃあ薬剤師の手当てを少しでも上げていただいて、いい人を捕まえてきたいのだということが御希望だってお話でした。確かにこれを見たら非常に説得力があるお話なので、院内薬局を頑張って続けていただきたいと。院内薬局を続けることのメリットは、確かにこういうふうにご金額的にありますけど、スタッフは物すごく負担なわけです。膨大な薬剤を全部管理しなきゃいけないし、そういう意味では本当は院外へ出したほうが楽だと。だから、ほとんどの診療所は院外薬局をくっつけてるんですけど、結局院外薬局のメーカー、業者団体がこれだけ暴利をむさぼってるわけです。国保を潰し

てると、こんなこと言っていていいんでしょうか。と思われるので、院内薬局を一生懸命維持するために薬剤師の確保に協力をいただきたいというお話でした。人件費の問題は、また別の次元になるんですけど、そうやって中西先生は頑張ってくださいってというお話を伺うことができたことと、去年1年前ですか、一度行ったときに、当時の中西医師は私たち厚生常任委員会の委員に向かって「3年間おまえら黙って見といてくれ」と、口を挟むなというふうに言われました。覚えてらっしゃると思うんですけど、私は覚えておりますが、それを御自分でもおっしゃった、僕はそういうふうに言いましたと。だけど、それはよくないということを書いてくれました。自分は赤磐市の市立病院の職員の一員として、赤磐市のために頑張らなきゃいけない。ですから、議会に対しても説明を尽くして、議会の皆さんの協力もいただきたいということで、大分これは岩本さんが頑張ってくださいった成果なのかなと思いますが、理解を双方ができることができて、本当に初めて応接間というところがあって通されました。今まで診療室の中の丸椅子の中で、こうやって説教を受けるようにして話を聞きましたから、雲泥の差でございました、対応が。中西さんもそういうふうに言ってくださって、今回の話も中西先生が来いということで、こちらから行きたいというのではなくて設定もしていただいたし、間に立つ職員の皆さん御苦労していただいているんだろうと思いますが、先生ととにかく今後もこういった御苦労されてる実態も話を聞かないとわからないってということも含めて、必要な話し合い、コミュニケーションをとらせていただきたいということで、こちらもお願いし、先生のほうもぜひそうしたいということで、言ってしまえば和解といいますか、いい話になったということをお報告しておきます。まず1点。

それから次は、買い物支援のその後、夢百笑と英国庭園のほうで、その後まだ走り出して間もないんですけど、幾らか報告する案件があればお願いしたい。

それから、地域応援隊の状況、これは例えば厚生委員会に関係ないところだと報告がないんです。最終的に5人かな、総勢。今3人いてあと2人っていうふうに聞いてますけど、できれば所属ですとかお名前ですとか、そういうことをこの委員会にも、よその委員会のかかわりとはいえ教えていただきたいというふうに思ってます。

最後になりましたけど、藤原課長のほうに29年度から介護保険法の変更に伴うことについて委員会として勉強させていただきたいので、またこれは終わった後でいいですから、藤原課長のほうにまた御相談をさせていただきます。

ということで、そこだけ。買い物支援と応援隊のことについて教えてください。

今わかるだけでいいです。

はい、国正課長。

○社会福祉課長（国正俊治君） まず、買い物支援見守り事業につきましては、3月25日によろやく滑り込みで何とか車のほうを2つの団体にお渡しすることができました。それぞれ今頑張ってくださいまして、じゃんじゃんほんなら4月の現段階で見守りができてるかというのと、

まだこれからです。でも、既に始まってはおります。非常に喜ばれて、届けるだけじゃなくて話が長くなって困っちゃうのよっていうような声なんかも聞いております。こちらとしましては、熊山地域や吉井地域の民生委員の会議や区長会のほうに出向きまして、始まったことの周知をさせていただいております。ただ、課題もぎょうさんございますので、一気に、例えば吉井地域の全エリアから大勢の方が注文が殺到すると実際はパンクします。その辺は様子を見ながら徐々に広げていただく。当面は、吉井でしたら仁美地域それから中勢、戸津野のあたりまでは、まずは頑張ろうかというふうになっております。徐々に広がっていくと思います。

それから、小野田ふれあい市場のおのだすけのほうですが、こちらのほうについても本当によく地域を歩かれてる、御事情をわかれてる方なので、ロコミで徐々に広がっていきまして、地域包括支援センターとも連携いたしまして徐々に広げていきたいと思っております。

それから、実施状況につきましては、4月月詰めで報告書が上がってくるようになってますので、現在では手持ち資料がございませんので、4月末締めのもので赤磐市の買い物難民さんが救えたというふうなきらびやかな数字が出るとは思えないんですけど、報告のほうは準備させていただきたいと思っております。

それから、地域おこし協力隊につきましては、こちらのほうには資料ございませんので…

○委員長（原田素代君） 済いません、私も文書でいただけますか。今いらっしゃる在職者とする予定の人のお名前や出身や年齢や役割。一覧をいただければ私たちも、担当は違っても地域の中で声をかけたり協力ができたりってことがあると思うので書面で下さい。

○社会福祉課長（国正俊治君） 担当課のほうに要請してまいります。

○委員長（原田素代君） それも今度郵送する便があるんならそれに入れてください。

○社会福祉課長（国正俊治君） ちょっとどういうぐあいになっているのかわからないので、依頼のほうはさせていただきます。

○委員長（原田素代君） お願いいたします。

○社会福祉課長（国正俊治君） はい、以上です。

○委員長（原田素代君） そうしましたら、あと委員の皆さんのほうから何か御質問しとくことありませんか。よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（原田素代君） 一応ここで念のため報告しますが、次回の厚生委員会が5月25日を予定しております。水曜日です。この日につつじ作業所、和楽の里、今のところこの2つをまず視察させていただこうと思っていて、ただこれは向こうの受け入れの確認をしてないので、午後に視察をするか午前に視察をするか、午前午後はこれから、あ、決まりました。

○保健福祉部長（石原 亨君） 午前中でオーケーです。

○委員長（原田素代君） 石原部長ありがとうございます。

そしたら、じゃあ午前中ここに……。

○保健福祉部長（石原 亨君） 9時半に出たいと思います。

○委員長（原田素代君） 9時半。

○保健福祉部長（石原 亨君） 昼までにはこちらに帰ってくる。1時から審議ということで予定を。

○委員長（原田素代君） 早速にありがとうございました。

じゃあ、5月25日は9時半に市役所集合で、視察を終えて1時から委員会ということにさせていただきます。御了解ください。

それでは、大変濟いません、時間が延長して申しわけございませんでした。

閉会に当たりまして、内田副市長からの御挨拶をお願いします。

○副市長（内田慶史君） はい、委員長、副市長、内田。

○委員長（原田素代君） はい、副市長。

○副市長（内田慶史君） それでは、本日は第4回の厚生常任委員会ということで、28年度におきましては初めての委員会ということでございまして、多くの事項につきまして長時間協議をいただきましてまことにありがとうございました。審議の中でいただきました御意見、御指摘等々につきましては十分尊重いたしまして、今後も当委員会との連携、また丁寧な説明により28年度の事業を推進してまいりたいというふうに思います。

また、以前からの懸案それから課題となっております事業もございしますので、例えば最終処分場の関係、そういった関係の事業も懸案となっておりますので、今後もその解決に向けまして、職員一丸となって取り組んでまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。本日は大変お世話になりました。ありがとうございました。

○委員長（原田素代君） どうもお疲れさまでございました。

午後0時19分 閉会